

## 夏季合宿報告 (8/4~5)

今年も清里の小平山荘で合宿が行われました。日帰り 1 名を含む 25 名の大所帯です。帯同組みは 6 台に分乗し、個人車 2 台、電車組もありました。そのうち付かず離れず 3 台がほぼ同方向の信州峠から川上村梓山方面へ行きましたが、途中、昨年ゴマシを目撃した部落周辺を深策するも果たせず、信州峠もキバネセセリも数えるほどしか見られず、白い花の木にもヒョウモンがパラパラと来ているだけでこれといったものはなく、早くも蝶の少ないことをおおいに実感しました。梓山も昨年コヒョウモンモドキがわんさかいたそうですが、今期は 1 頭もみられず、海ノ口牧場へ寄った組がキマダラモドキを数頭得たのが唯一の収穫です。天気は曇り時々晴れでしたが、松原湖、美濃戸方面へ行った組は曇りでほとんど蝶は見られなかったようです。T 氏が藪の中にカメラを忘れるハプニングがあり引き返して探したところ本当に奇跡的に発見することができました。よかったですね。

5 時集合のところ 4 時頃到着したにも関わらず好き者組？が 7~8 名、すでにだいぶ盛り上がりおりました。夕食の時間ぎりぎりに H 車組が到着、なんと途中バッテリー上がりで動かず、別車に乗り換えてきたとかで今日は蝶との面会がかなわなかったようです。

もっともこの蝶の少なさではいずれにしても大差は無かったかもしれませんね？

夕食後、好き者組みは 10 時頃までわいわいやっていたようです。しかし、T 氏のお孫さんや S 氏は好き者組を尻目に？しっかり 9 時過ぎまで夜間採集をしておりました。偉い！？翌日はうってかわって良い天気でしたが場所によりばらばらと天気雨がありました。すべては把握できませんが、乗鞍スーパー林道へのオオゴマ組（各自数頭は採れたようです）霧ヶ峰の池のクルミ付近散策へ向った組、海ノ口牧場付近へキマダラモドキモドキを求めていった組等ありましたが、昨日一緒になった 3 台はまたもや思惑が一致して期せずして富士吉田市の梨が原へ向いました。ここは日曜日だけ開放される自衛隊の北富士演習場です。膨大な広さの草原ですが、ここもいづれも同じく例年に比し蝶影は少なく、ヒメシロ、ヤマキ、キマダラモドキモドキ等はほとんど見られず、数少ないゴマシとコチャバネセ、ヒョウモン類がパラパラと言う状態でした。相蝶会の顔見知り数名と出会いご挨拶がてら少しお話ししましたが、異口同音に蝶が少ないと皆半ば呆れ顔でもうしておりました。我々は 2 時前後に切り上げたせいか渋滞もさしたることもなく 4 時前には帰宅できました。そのご各所は猛暑に見舞われ観測史上の最高記録を塗り替えたところが多かったようですが、清里は本当に涼しく別天地でした。何せ毛布に布団をかけてちょうど良かったのです、窓を開けて寝てしまった組は寒かったと言っておりました。

来年も夏季合宿は計画されるはずですので、今回参加できなかった方も是非ご参加くださるよう宜しく願いいたします。皆で色々お話するのも蝶採りもまた一味ちがったものになります。

事故もなく無事楽しんでこられたのも小柴さんを主とした企画の皆さんの努力と参加の皆

さんの賜物です。皆さん有難うございました、又来年にそのまま繋げましょう。

\* 新入会員（宜しく願ひいたします）

渡辺 力 〒112-0013 文京区音羽 1-6-4 T:03-3946-6040 ML:mushi@tcn-catv.ne.jp

\* 変更（住所、電話、メルアド）

斎藤 基樹 〒166-0012 杉並区和田 1-50-13 和田寮 101 T:03-5340-8680  
携帯：090-4947-1782

生駒 太郎 〒160-0023 新宿区西新宿 7-5-9 Prospect axe The Tower 18F

保坂 満 ML:falter.hosaka@nifty.com

松井 弘 ML:matsui48@dia-net.ne.jp

岩野 秀俊 ML:iwano.hidetoshi@nihon-u.ac.jp

\* 新聞紙上より



**世界の昆虫3000匹** 中毎日 07.8.12

武蔵野市職員 平岡さん収集の標本展

世界約150カ国約3000匹の昆虫標本を集めた特別展「世界の昆虫博」が府中市郷土の森博物館（同市南町）で開催中だ。

標本を提供したのは武蔵野市の職員で、国内有数の昆虫コレクターとして知られる平岡正之さん（50）＝府中市在住。昨年、東南アジアで87年ぶりに採取されたという「モエルネリアゲハ」などのチョウをはじめ、カブトムシやクワガタなどの標本が展示されている。

平岡さんは学生時代、府中市の生息動植物を調べ「府中自然調査団」に参加し、学生生活の合間に多摩川河川敷や浅間山（同市浅間町）で虫を追いかけた。「青空の下で自然に親しむ楽しさ。虫を捕まえるハンティングの要素。いろいろな楽しみがあるんです」

武蔵野市役所に就職して数年後、休暇を取って東南アジアにチョウを捕りに旅した。熱帯のジャングルで極彩色のチョウの美しさに引かれた。同時に「自分で虫を捕るとの限界も知った」という。以後は標本のコレクターとしてチョウからコガネムシまで虫と名の付くものは何でも集めた。

「今回出展するのは1割くらい」。自宅2階の6畳間には標本の額縁が積み重なり、整理をするときに眺めるのが至福のときだという。自然調査団で一緒だった同博物館の中村武史学芸員に誘われ、95年に初めて展覧会に標本を提供。02年には2回目の展覧会が開かれた。「虫の美しさは、自然の持つ美しさ。子どもだけでなく大人も楽しんでほしい」と平岡さん。

9月2日まで。8月13日と27日は休館。大人400円、中学生以下300円。博物館入場料が別途必要。同博物館（042・368・7921）。

# 赤とんぼ 追跡大作戦

日本の代表的な赤とんぼ「アキアカネ」の羽に赤いマークをつけて追跡する大規模な試みを元国立環境研究所総合研究官の春日清一さん(65)が開始した。自宅近くの茨城県美浦村の霞ヶ浦南岸で孵化したアキアカネの移動経路を突き止めるのが目標で、調査への協力を呼びかけている。



アキアカネは、6月下旬に低地で成虫になり、夏を



アキアカネの羽に赤く塗った追跡用

2007.7.9 読者(7) 春目さんはこれまでに約250匹を追跡用にマークして放したが、「一人では追跡しきれず、羽の赤いトンボを見かけたら教えてほしい」と話している。春日さんの連絡先は

元環境研究 羽に印「見たら教えて」

涼しい山間部で過ごし、秋に低地に下りてくること

が知られている。だが、どれだけ距離を移動するか

メール (skasuga@mv.biglobe.ne.jp)。

電話(029・0800・0006) または電子

など不明な点が多い。

霞ヶ浦周辺のアキアカネの多くは約40匹・以上離れた筑波山で夏を過ごすと考えられているが、春日さんは、100匹・以上離れた栃木・日光連山や東京・奥多摩まで行く可能性もあると見ている。また、マークしたアキアカネが霞ヶ浦に戻ってきたら、トンボがどうやって生まれ故郷を覚えてくるのか、新しい謎も生ま

標本



ファーブルの『昆虫記』の著者。『ガリバー旅行記』の主人公。共通点は子どもたちに人気があることと夢があること。夏休みのキャンプの光景だろうか。大人顔負けの昆虫博士も冒険家もいる。作者は長年、教師をしてきた人。

四季 長谷川 權

ファーブルもガリバーもある夏野かな

田島文字子

蟻



秋に備えて忙しく働く蟻たち。ふだんは気にも留めない地球の同居者を、あるとき、まじまじと眺め直したのだ。この句、拡大鏡をあてたように蟻の姿を映し出す。「銜へなほして」というところがなまなましい。ちいさな蟻の屈強の顎。

四季 長谷川 權

また銜へなほして蟻が蝶引けり

雷淑子

2007.7.21

読者

2007.7.28

読者

## 昆虫生まれの技術紹介

カブトムシから抗菌剤、カイコのまゆで化粧品

7.8.12 読売

カブトムシを使った抗菌剤の開発など、知られざる昆虫の能力を紹介する特別展「昆虫力～昆虫から学ぶ科学技術の最先端～」(読売新聞社後援)が、11日から東京・北の丸公園の科学技術館で始まった。

会場には、カブトムシの1.8倍四方の巨大写真などが展示され、12種類の昆虫

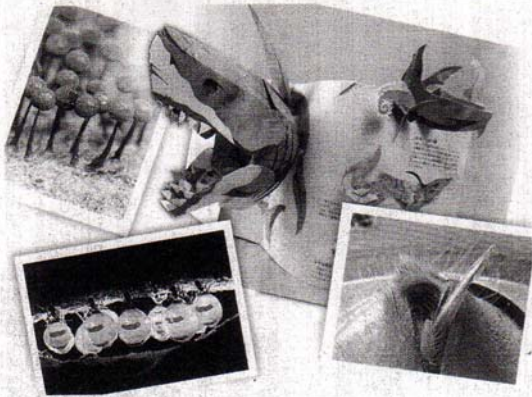


ひときわ目を引く昆虫の巨大写真  
(©橋本典久+scope)

が、研究開発商品などとともに紹介されている。7色に見えるタマムシの羽と同じ原理を使った繊維や、カイコのまゆから取った絹を原料にした紫外線カットの化粧品、ホテルの発光物質を利用した微生物検出装置など、昆虫生まれの技術を活用した品々は興味深い。

科学技術館の入館料は大人600円、中学・高校生400円、こども250円。26日までの期間中、有料で工作教室も開かれる。問い合わせは同館(03・3212・8544)へ。

## ● 図版に工夫の生物本



左上から時計回りに、形のかわいいルリホコリ(『粘菌』)、飛び出す絵本、拡大撮影したスズメバチの針(『昆虫の雑学事典』)、ミツをためたミツツボアリ(『世界珍虫図鑑』) ©ネイチャー・プロ

## 精緻な写真 無言の訴え

街の自然が減って、昆虫採集さえできない……。そんな嘆きを抱えるアウトドア派には、あえて書店へ足を運ぶことを勧めたい。図版に工夫が凝らされ、飛び出す仕掛けが楽しい充実した生物の本が、うまく網の中に捕まるかもしれない。(待田晋哉)

「昆虫への興味が薄い学校の生徒たちに、何とかして面白さを伝えたい」

そんな願いを込め、中学理科教師の阿達直樹さんが執筆し

たのは『昆虫の雑学事典』(白本実業出版社)。虫の体の様々な部位を電子顕微鏡で拡大撮影した精緻な写真はユニークで、体の作りや生態に関する記事もわかりやすい。

刺した後、簡単に抜けないよう「毛針状の反り」があるスズメバチの針は見るからに痛そうだ。花粉の付着を避けるため毛が生えていてミツバチの複眼など、自然が生み出した工夫の巧みに感心させられる。

珍虫105種を厳選した川

上洋『世界珍虫図鑑改訂版』(柏書房)も写真が楽しい。体長1.7センチなのに、食料貯蔵用に糖液をため込み腹が直径1センチに膨らむオーストラリアのミツツボアリ。ニューヨークに住み、青白く発光するハエの幼虫グロウワームの神秘的な美しさ……。

枯れ木や落ち葉などによく生息する、南方熊樺が研究した謎の生物を紹介する『粘菌』(松本淳蔵、伊沢正名写真、誠文堂新光社)と合わせて読むのは、自然がなぜこんな魔術

生ずる地球の大切さを強く訴える。田んぼの水につかり自慢げにほおを膨らますトノサマガエル、川を静かに泳ぐメダカたち。内山りょう『今、絶滅の恐れがある水辺の生き物たち』(山と溪谷社)は、水田の圃場整備や水路のコンクリート護岸化により、かつて国内のどこにもいた生物が危機に瀕している現状を伝える。

最後に、昨年あたりから子供の間でブームを呼んでいるのが「しかけ絵本」。1965

年、米園・ミシ

ガン州生まれの

紙の魔術師

07.このロバート・

サファタさんら作の『太古の世界 恐竜時代』は10万部、『シ

ャーク 海の怪物たち』は3

万6000部を刊行する。

本を開くと、クビナガリュウやクロノサウルスなどの大型動物が飛び出てくるのは文句ない迫力だ。版元の大日本

絵画によると、原画を組み立てる作業は、タイや中国などの工場ですべて手作業で行われる。人気は急上昇しても、一般書籍のように大量増刷できないのが悩みの種だという。

……本を眺めているうち、やっぱり虫捕り網を持って野山を駆け回りたくなった。週末は、書を捨てて野へ出てみよう、かな。

不思議な生物を誕生させたのに興味がある。

奇妙な生き物を面白がるだけなく、環境を守ることも

求められている。有毒の蛇や

昆虫に襲われる死の恐怖と戦

いながら、16年がかりで撮影

した世界中の熱帯雨林の50

0種の動植物を取めたトーマ

ス・マレント『熱帯雨林の世界』(緑書房)は、そう実感

させる大著だ。

地球上の陸地の6%しかない

熱帯雨林に、原色鮮やかな

昆虫や鳥、ランなど多様な生

物が息づくことを教える写真

の数々。子供が母親にしがみつ

いたオランウータンの親子

の写真は、多くの動植物が共